

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2012.2.12 No.8

北海道ボランティア・レンジャー協議会

◆ この大雪（おおゆき）のなかで、野幌森林公園の動植物たちはどんな生活をしているのだろうか。私たちも雪と寒さのなかで酷（ひど）いのだが ◆

雪は一面の銀世界をつくり、スキーなどのスポーツを楽しむことができますが、その反面、私のような年齢の人たちは家の周囲の除雪をはじめ、たいへんな日々を送っている人も多くいます。

それでも、この大雪に耐えながら、春にはその雪が溶け、大地を潤し、生き物たちを育むという自然の大きな循環の中で恩恵を受け楽しみにしながら生活をしているといえます。

◎雪はどうして降るのだろうか。

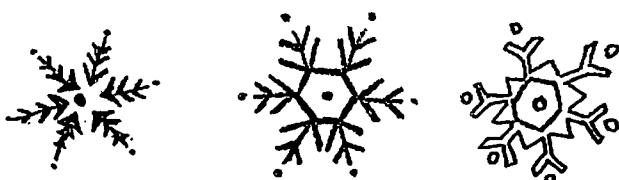
皆さんもよく知っているので、ごく簡単にふれてみます。大気がいろいろな要因で上昇すると気温の低い上空に行くにしたがって膨張し温度が下がっていきます。空気の含むことのできる水蒸気は気温が低くなると少量となり、それ以上含むことができない過飽和状態となり、マイナス 15 度位になると水滴が結晶をつくって、それが落下してくると言われています。

◎雪の結晶はどのような形をしているのだろうか。

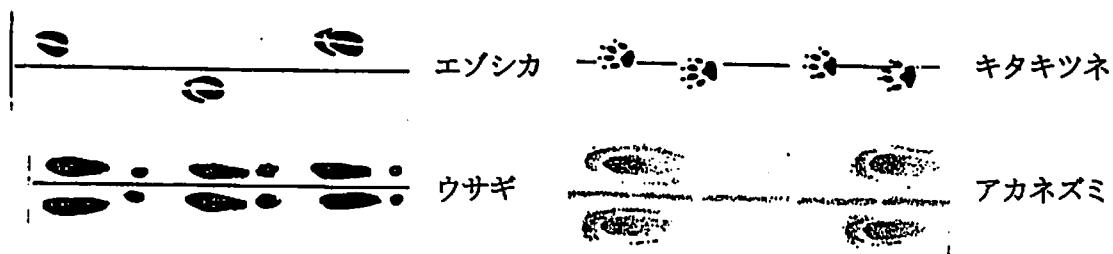
雪の結晶、その基本形は6角形ですが、それぞれ異なり千差万別といわれています。その基本形をもとに4つの型に分けています。結晶が縦に成長した＜角柱結晶＞、直線的な＜針状結晶＞、6角柱の側面が成長した＜角板結晶＞、この角板結晶が成長した樹木の板のような形の＜樹枝結晶＞などがあります。一般的に言えば、雪の結晶は樹板結晶が美しく完成されたように見えます。しかし、そうした形はきわめて少なく枝が不揃いのものや欠けたものが多いようです。結晶は成長する気温や水蒸気などの気象条件などの僅かな変化と降り落ちる経路などによって成長の条件が異なりさまざまな形となって落ちてくるそうです。

◎動物たちはどんな生活をしているのだろうか。

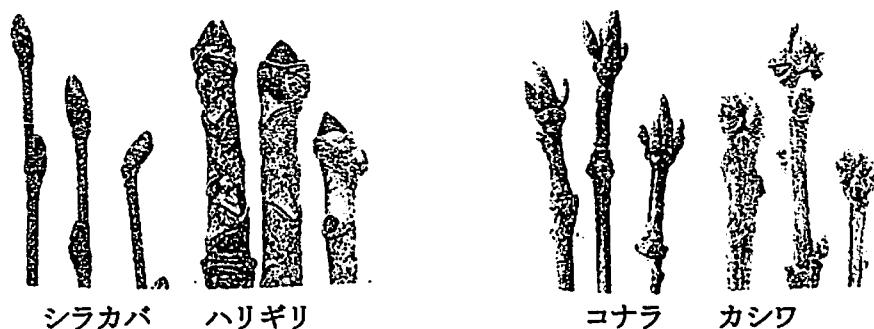
・この森林公园では巣穴で生活するフクロウの様子を見ることができそうです。この巣穴からネズミなどの小動物を捕えて生活しているようです。フクロウはさまざまな能力、目や耳ばかりでなく風切羽により空気の流れを調整して静かに飛ぶことができる能力などをもつ魅惑的な鳥です。まさに、智恵の女神と呼ばれるゆえんでしょう。会えるといいですね。



・ネズミ、エゾユキウサギ、キタキツネ、エゾシカたちは、樹木の皮、その下にいる虫たち、冬芽などの餌を求めて走りまわっていると思われます。雪の上では土の上面とは違って鮮明でないのもありますが、いくつか痕跡をあげてみます。（ここには土の上面のこともあります）



- ◎ 樹木たちは固い皮で覆われた冬芽をつけながら春を待っています。
- ここでいくつかの代表的な樹木の冬芽を載せます。



冬は樹木にとっても枝が折れたり、幹まで折れたりしてたいへんなようです。特に雪に強いと言わ
れている「トドマツ」なども小さいときに枝や幹などが折れ、そこと接していたところが凍結して病
気になったりする現象がわかつてきました。

零下20度の北海道 — 山には虫の声

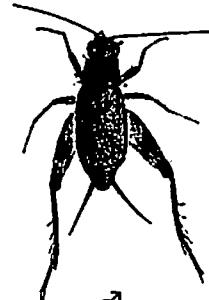
1月29日（日）「朝日新聞」より

タヌキが昼寝し、コウロギの鳴き声が聞こえる。北海道弟子屈町の屈斜路湖近くにあるポンポン山（標高約270m）は、周囲の極寒とは別世界だ。この時期は零下20度を下回る日も珍しくなく、

27日は零下26.6度を記録。それでも、地面の至るところから噴気が立ち上る地熱帶で、地表の所々には青々したコケが茂る。

「ジーッ、ジーッ」。枯れ葉の下などでは温かく、この時期に羽音が聞こえる。鳴いているのは、コオロギの一種で、脚にしま模様がある体長5~10ミリほどのマダラスズだ。

野生動物にとっても「楽園」。エゾシカの越冬地になっているほか、くぼ地ではエンタヌキが寝ている姿を見かけることもある。



枯れ葉の下などに隠れて鳴くマダラスズ

»図解などは フォレストガイド(道立林業試験場)、
石狩森づくりセンターなどの資料から引用させて
もらいました。